



ようし



は



おも

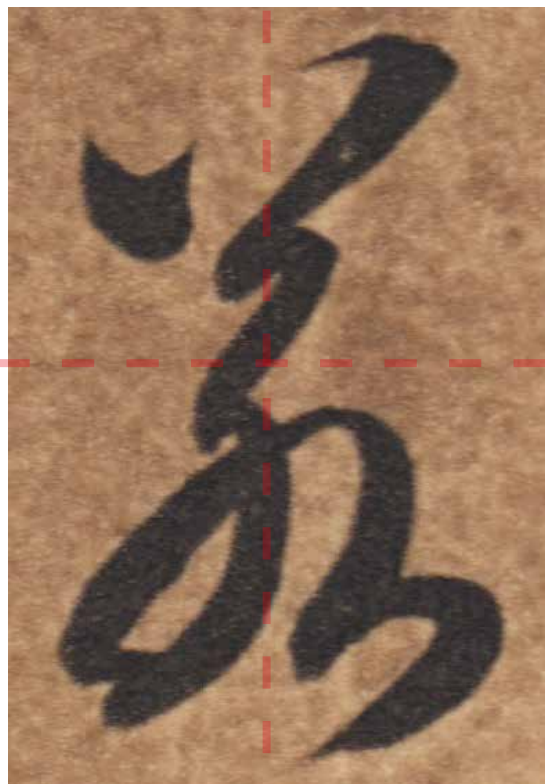
うが



ごと

く、

立ち振る舞いは厳かにし、



冬



支





元



支



寒



●

げんじ



あんてい

言葉は落ち着いて穏やかに。

初

はじ

めを

考

あつ

くするは

味

まこと

に

美

うるわ

し、

味

美

考

初

庚

魚

終わり慎むはなお良し。



おわり



つつし



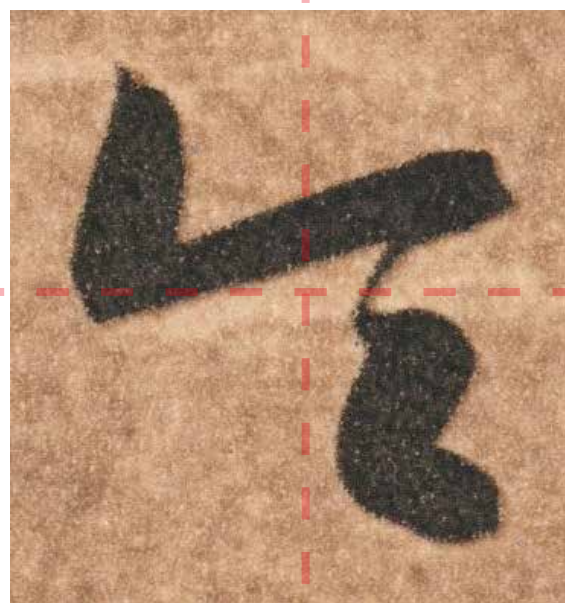
よろ



よ



支



東



の



とする



、

えいぎよう

もと

ところ

身を正しくこれら教えの基づくところ、

庚

支



虞



せきじん

お

な

にしで  
わりせし。

名聲は高まり後の世まで伝えられるであろう。



がく



すぐ



とうし



し、

学に優れれば士官の道を得る、

蒸

尤

登朝したら国政の一端に連なれ。

しよく  
祿

と  
を

と  
按

まつりごと  
りて

に

したが  
従

う。



冬

庚

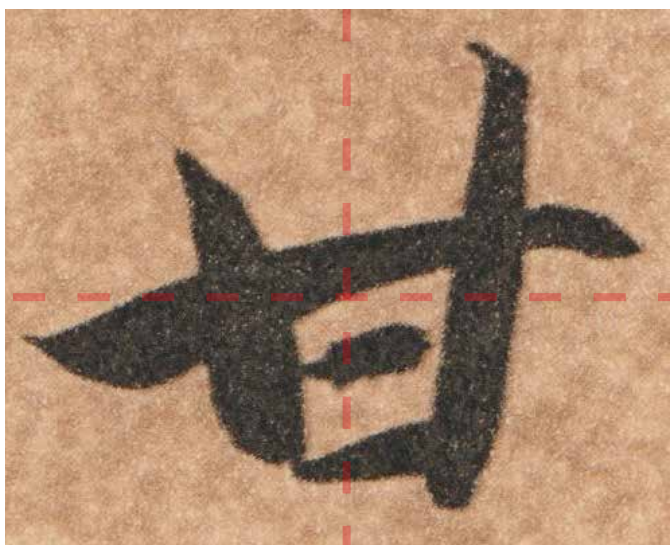


元



覃

陽



そん

かんとう

もつ



するに

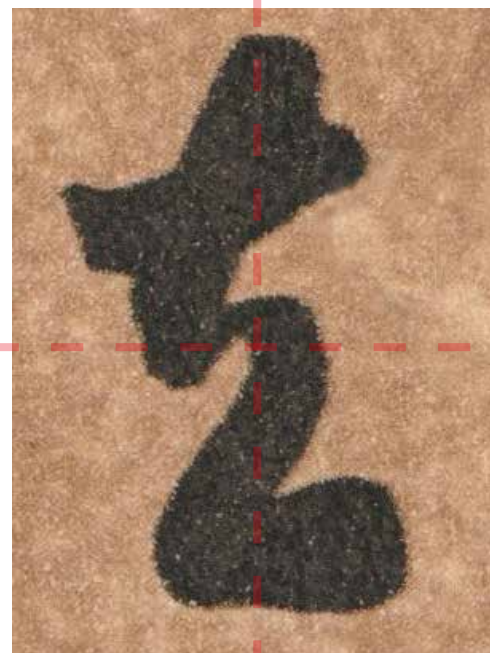


を



てし、

「史記」燕召公世家によると、周の成王の時、召公が国を治め、巡行した時、棠樹の下で獄政を決裁したが失職する者がなかった。召公が亡くなった時、民はその政を思い棠樹を懐い、歌詠して甘棠の詩を作ったという。



さ

ち

ます

と

ます

えい

泳

ぜらる。

「史記」燕召公世家によると、周の成王の時、召公が国を治め、巡行した時、棠樹の下で獄政を決裁したが失職する者がなかった。召公が亡くなった時、民はその政を思い棠樹を懐い、歌詠して甘棠の詩を作ったという。